

| | | | | | | | | |
|--|---------------------------------------|------|------|-------|--------|------|---------------|--|
| 登録コード | A1510100 | | | | | 担当教員 | 藤田 智之 他 | |
| 授業科目 | 農学入門 | | | | | | | |
| 英文授業名 | Introduction to Agricultural Sciences | | | | | | | |
| 単位数 | 2 | 講義期間 | 前期 | 曜日・時限 | 金曜・4時限 | 対象学生 | 農学部農学生命科学科1年生 | |
| 講義室 | 共通教育13講義室 | | 授業形態 | 講義 | 備考 | | | |
| <p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通 ・豊かな人間性と幅広い教養を修得している ・農学に関する広い知識・技術を修得している ・地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している 【授業の達成目標】 ・農学とは何かを理解している。 農学を学ぶことに対して魅力を感じる。</p> <p>・農学の基礎知識を習得すると同時に食料・環境・生命分野の専門領域に対してもある程度の説明ができるようになる。</p> <p>・農学を取りまく技術が私たちの生活にどのように活かされているのかを説明できるようになる。 人類の持続可能な発展と農学との関係をサステナブル・アグリカルチャーとして説明できるようになる。 【授業のねらい】 農学に関わる人々は、食料、生命、環境科学などに関する個別な問題や複合的な課題を総合的・有機的に理解し、21世紀を生きる上で益々重要となる資源循環型社会の形成について考えることが必要です。この講義では、これから農学を学ぼうとしている新入生の皆さんに広義の農学に関する新たな知的基盤を与え、農学の必要性とその考え方の重要性について啓発することを目的としています。</p> <p>(2)授業の概要 私たちは今、食料、生命、環境科学などに関する数多くの課題に直面しています。たとえば、これらの課題には、食料不足、農耕地の疲弊や砂漠化、食糧自給率の低下、食の安全、資源の枯渇、環境の破壊、生物多様性の減少、地球温暖化、酸性雨などがあります。さらに、このような自然科学に関係する課題だけでなく、地域社会の機能低下や活性化及び農林水産業政策の今後の展開など社会科学に関する課題にも直面しています。これらの諸課題を多面的に扱い、科学技術や政策などを包括し、解決策を探求する学問分野が農学です。本講義では、食料、生命、環境科学などに関する個別事象のみならず、それらの複合的かつ学際的な知識を習得し、私たちが直面する諸課題に対して高い見識と展望し、いま、なぜ農学を学ぶのかについて考えてみたいと思います。</p> <p>(3)授業計画 第1回：藤田 智之 未来と向き合う農学 第2回：田中 沙智 世界と向き合う農学 第3回：上野 豊 地域と向き合う農学 第4回：上野 豊 土・植物・動物のつながりを探る科学 第5回：藤田 智之 稲と野菜の科学 第6回：藤田 智之 おいしさの科学 第7回：田中 沙智 食の安全を追求する科学 第8回：鈴木 俊介 ポストゲノム時代の生命科学 第9回：鈴木 俊介 植物改造の過去・現在・未来 第10回：鈴木 俊介 動物という巨大な細胞社会を統御する仕組みを知り利用する 第11回：田中 沙智 食と健康の科学 第12回：斎藤 仁志 私たちを取り巻く環境 第13回：斎藤 仁志 里でのいとなみ 第14回：斎藤 仁志 森を知り、まもり、つくる 第15回：上野 豊 海のいとなみ 第16回：藤田 智之 農学の持ち味とは</p> <p>(4)自主学習の指針 ・毎回の授業内容について、教科書の該当箇所を自主学習して下さい。</p> <p>(5)成績評価の基準 評定については次の評価基準を基本としています。 秀：授業の達成目標の水準から見て卓越している 優：授業の達成目標の水準よりかなり上にある 良：授業の達成目標の水準よりやや上にある 可：授業の達成目標の水準にある 不可(D)：授業の達成目標の水準よりやや下にある 不可(F)：授業の達成目標の水準にない</p> <p>なお、達成目標の水準は、授業で示す例題や小レポート課題程度の水準です。</p> <p>(6)事前事後学習の内容 毎回の授業で小レポートを課します。そのレポートが当日提出の場合は、授業後に関連事項について入念に復習して下さい。次回授業時に提出の場合は、必要情報を調査し、レポートを作成して下さい。</p> <p>(7)テストやレポートの予定 ・毎回の授業で小テスト等を実施し、出席を確認します。 ・期末試験(筆記試験)を実施します。2/3以上の出席回数を受講生にのみ期末試験の受験を認めます。</p> <p>(8)成績評価の方法 ・出席点0%、小テストの累計100%(形成的評価)</p> <p>(9)質問、相談への対応および連絡先 ・授業担当者は全員が南箕輪キャンパスから松本キャンパスに出向いています。質問・相談はなるべく講義中に行なって下さい。毎回の小レポートに合わせて、質問・相談等を記述することもできます。 ・連絡先 電子メール tfujita@shinshu-u.ac.jp (藤田 智之)</p> <p>(10)履修上の注意 ・教科書を購入して毎回持参して下さい。高校で生物の授業を受けていない受講生は、本講義への真剣な取組みと入念な予習・復習が必要となります。</p> <p>【教科書】 安田弘法他編著：農学入門 食料・生命・環境科学の魅力 養賢堂 ISBN 978-4-8425-0519-0 定価 (3,800円+税)</p> <p>【参考書】</p> | | | | | | | | |